



1房の中には数十個の卵が取められている



砂地に産みつけられた卵



産卵にやってくるジンドウイカ

ジンドウイカの子どもたちに出会える季節

例年にならない遅い入梅に、この夏の猛暑を予感します。海中は徐々に水温が上がりがつつあるものの、水深10メートルを超えるあたりにはサーモクラインがあり、一気に水温が下がりはじめ、その差は4〜5度もあります。なお、サーモクラインとは、ダイビング用語で暖水域と冷水域との境界に現れる「もや」のことです。

上は天国、降りれば地獄の水温なのに、わざわざその寒いエリアを目指すのは、ジンドウイカを観察するためです。

5月下旬から6月にかけてこのイカたちは、集団で10メートル前後の砂地へ産卵をするためにやってきます。産卵は夜間に行うため、日中に出会うことはほとんどありません。確実に出会えるのは、砂地に産みつけられた卵塊です。女性の小指ほどのサイズの房を十数本まとめて産みつけます。

本当の“お目当て”はこの卵にあります。2週間も経つと、房の中に見られる卵の粒一つひとつに、魅力的な美しい稚イカが育つ様子が観察できるのです。

ここでジンドウイカについて少しご説明いたします。大人でも12センチメートル程度のこのイカは、北海道の中央以南から九州まで幅広く分布しています。そのため、地域ごとに様々な地方名で呼ばれています。

青森でテクビイカ、相模湾周辺でヒイカやアカイカ、市場ではコイカ、その他にもボウズイカなど多くの呼名で知られています。

ちなみに、食用とされ、寿司ネタになるほど美味だそうですが、残念ながら私は食べたことがありません。(写真・文 水中カメラマン 佐藤長明さん)

編集後記

▶今月の表紙はふるさと学習会の細浦海岸探検です。▶海水パンツとビーチサンダルを用意しましたが、海は穏やかだったので、身に付けることなく撮影ができました。▶私は子どもたちのころ、友達と大森から荒島付近の海岸を探検し、貝やカニを捕ったり、魚釣りで遊びました。▶そこで、よく貝の化石を見つけ、三葉虫と思われる化石を見つけ心を躍らせたこともあります。▶13ページ掲載の皿貝化石まで同行した私は、化石探しをちょっと楽しませてもらいました。担当 佐藤

●日曜当番医

7/1 鎌田医院

☎36-2008(歌津字伊里前)

7/8 ささはら総合診療科

☎47-1066(志津川字汐見町)

7/15 佐藤徹内科クリニック

☎47-1175(志津川字廻館前)

7/22 高橋クリニック

☎46-4315(志津川字中瀬町)

7/29 本田記念あおいクリニック

☎46-4530(志津川字十日町)

●第1・第3日曜歯科当番医

7/1 小野寺歯科医院

☎36-3717(歌津字伊里前)

7/15 茶園歯科医院

☎46-3629(志津川字十日町)

※日曜当番医は、変更となることがありますので、あらかじめ電話で確認してください。受診の際は保険証をお持ちください。